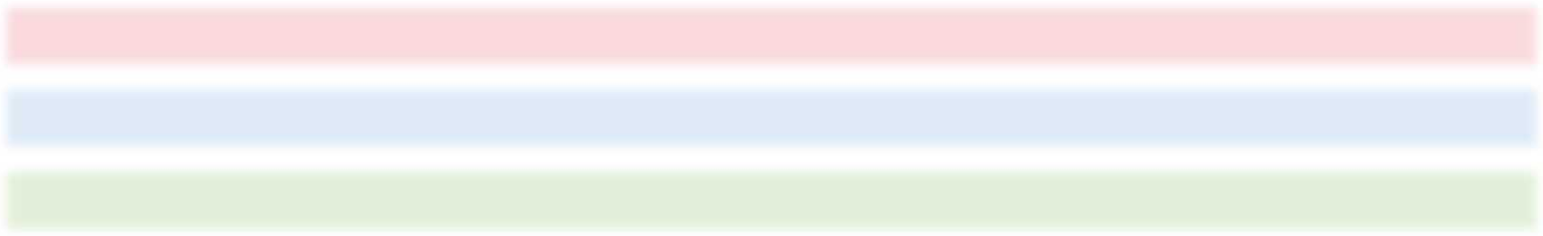


信州みちビジョン 概要版



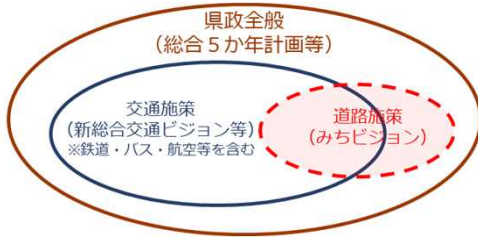
信州みちビジョンの概要

改定の背景と目的

長野県では、2018年3月に「信州みちビジョン」を策定しました。

策定から5年が経過し、目標達成状況の確認と、社会情勢の変化を踏まえた今後の道路事業の方向性を、改めて県民の皆さまに示すことを目的とします。

● 本ビジョンの位置付け



● 本ビジョンの期間

期間	2018年		2027年
	2013~ 2017年	2018~ 2022年	2023~ 2027年
総合5か年計画	▶	▶	▶
新総合交通ビジョン	▶	▶	▶
信州みちビジョン		▶	▶

今回改定

信州みちビジョンのめざす姿

長野県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」の中で掲げられた長野県の将来像から、道路分野に関わる内容を整理し、信州みちビジョンのめざす姿として共有いたします。

1 持続可能で安定した暮らしを守る

- 持続可能な脱炭素社会の創出
- 災害に強い県づくりの推進
- 社会的なインフラの維持・発展
- 県民生活の安全確保

2 快適でゆとりのある社会生活を創造する

- 地域の特徴と自然の恵みを生かした
快適で魅力ある空間づくりの推進
- 本州中央部広域交流圏の形成
- 世界水準の山岳高原観光地づくりの推進

社会情勢の変化と今後強化していくべき課題

信州みちビジョン策定後における長野県を取り巻く社会情勢の変化や最新の県民ニーズを踏まえ、今後の道路施策で強化していくべき課題を次のとおりとします。

社会情勢の変化

- ① 令和元年東日本台風などによる県内の被災
- ② 集団登校中に発生した通学路での事故
- ③ 重要物流道路の指定、「長野県広域道路交通計画」の策定
- ④ 「長野県自転車の安全で快適な利用に関する条例」の施行、「長野県自転車活用推進計画」の策定
- ⑤ 「長野県ゼロカーボン戦略」の策定
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症に伴う急速なライフスタイルの変化
- ⑦ 「歩行者利便増進道路制度(ほこみち制度)」の創設
- ⑧ 「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」の策定

県民ニーズの把握(R3県政モニター)

H29県政モニターから変化せずニーズの高い項目

- ・生活道路や幹線道路の整備
- ・こまめな道路の維持管理
- ・歩道や自転車道の整備

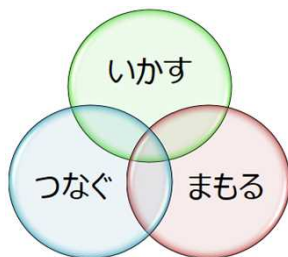
H29県政モニターからニーズが増加した項目

- ・落石や土砂災害への対策

今後強化していくべき課題

- 自然災害の激甚化・頻発化に伴う災害に強い道づくり
- 身近な生活道路で発生する歩行者・自転車事故の軽減
- 道路インフラの省エネ化・グリーン化
- 人中心とした賑わいのある道路空間の活用

つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり



人口減少・高齢化の進行、事故・災害・老朽化等に対する安全性の確保への対応など、限られた予算の中で解決するためには、道路を「つなぐ」ことに加え、命や暮らしを「まもる」こと、地域づくりへ「いかす」ことが求められています。

この3要素をバランスよく進めていくことが重要であるため、上記を本ビジョンの基本目標とします。

基本方針

いかす

道路の多面的な機能を地域づくりへいかす



つなぐ

県内外をスムーズかつ効率的につなぐ

まもる

災害や事故から県民等の命や暮らしをまもる

重点分野と施策の展開、各施策に対応するSDGsの目標を以下に示します。

重点分野Ⅰ 県土の強靭性

施策(1) 災害に強い みちづくり



- ①重要物流道路や代替・補完路の整備
- ②緊急輸送道路の強靭化
- ③災害時における輸送・避難空間の確保（無電柱化など）
- ④落石や土砂崩落への対策
- ⑤防雪・消雪対策や効果的・効率的な除融雪
- ⑥ラウンドアバウトの整備

施策(2) 災害対応の迅速化をめざした みちづくり



- ①災害時における道路の迂回機能の強化
- ②災害拠点としての道の駅の整備（非常用発電設備等の整備）
- ③速やかな道路情報提供の体制づくり（通行止め、迂回路の情報提供など）
- ④災害時における速やかな道路啓開の体制づくり（タイムライン作成など）
- ⑤UAV を活用した災害情報の収集
- ⑥カメラ画像等を活用したAI による交通障害の自動検知技術の導入

施策(3) いつでも安心して移動できる みちづくり



- ①長寿命化修繕計画の策定・更新や定期点検の実施
- ②予防保全型のインフラメンテナンスへの転換の推進
- ③新技術を活用したインフラの点検・診断・解析の推進
- ④CIMデータの蓄積による管理システムの効率化・高度化
- ⑤除雪業務の効率化のため除雪機械へのGPS搭載や運転支援システムの導入

重点分野Ⅱ 持続可能で快適な暮らし

施策(1) 誰もが安全に移動できる みちづくり



- ①歩道や自転車通行空間の整備
- ②生活道路および通学路の交通安全対策
- ③踏切道の安全対策
- ④歩道のユニバーサルデザイン化の推進

施策(2) 脱炭素社会の実現に向けた みちづくり



- ①都市部における自転車通行空間の整備
- ②バス路線の道路環境整備
- ③ビッグデータなど情報技術を活用した渋滞状況の把握と対策の推進
- ④GXの推進（道路照明のLED化など）
- ⑤EVや自動運転サービスに対応した道路環境整備

施策(3) 歩きたくなる みちづくり



- ①信州まち・あい空間による快適で魅力あるまちの創出
- ②道路空間の柔軟な活用によるオープン化（ほこみち制度の活用など）
- ③観光客をひきつける景観の形成・保全の推進（無電柱化など）

施策(4) 快適な暮らしを支える みちづくり



- ①都市を形成する市街地道路の整備
- ②都市部や地域の拠点などを結ぶ道路ネットワークの整備
- ③地域の生活を支える道路網の整備
- ④中山間地における1.5車線の道路整備
- ⑤快適な暮らしを支える適切な維持管理

重点分野Ⅲ 観光や産業の振興

施策(1) 人・モノ・サービスが行き交う みちづくり



- ①本州中央部広域交流圏を形成する幹線道路の整備
- ②リニア中央新幹線の整備効果を広く県内に波及させるための関連道路の整備
- ③産業・観光および交通拠点へのアクセス性の向上

施策(2) ストレスなく快適に移動できる みちづくり



- ①産業の生産性や観光の周遊性を高める道路整備
- ②道の駅への公衆無線LAN設置支援やトイレの快適化
- ③観光地内を快適に移動できる歩行者空間の整備
- ④観光客が快適に過ごすことのできる環境整備（多言語表記の拡充など）

施策(3) 観光を満喫できる みちづくり



- ①自転車通行空間の整備などによるサイクルツーリズムの推進
- ②インフラの観光資源としての活用（トンネル・峠カード、信州ナビ等の利用）
- ③道路美化活動の取組（日本風景街道の活用、アダプト団体等への支援）
- ④歩いて楽しめる道路利用空間の創出

重点分野Ⅰ 県土の強靱性

激甚化・頻発化する災害に備え、安心して住み続けられる地域をめざします。

キーワード

防災・減災

重要物流道路

緊急輸送道路

定期点検

長寿命化修繕計画

新技術活用

対応する施策

(1)災害に強い みちづくり

(2)災害対応の迅速化をめざした みちづくり

(3)いつでも安心して移動できる みちづくり

重点分野Ⅱ 持続可能で快適な暮らし

子どもからお年寄りまで、皆が快適に暮らせる、持続可能な地域をめざします。

キーワード

歩行者・自転車

脱炭素・GX

信州まち・あい空間

無電柱化

維持管理

道路ネットワーク

対応する施策

(1)誰もが安全に移動できる みちづくり

(2)脱炭素社会の実現に向けた みちづくり

(3)歩きたくなる みちづくり

(4)快適な暮らしを支える みちづくり

重点分野Ⅲ 観光や産業の振興

観光や産業の振興を通して、成熟した豊かな地域をめざします。

キーワード

本州中央部広域交流圏

リニア中央新幹線

産業の生産性

観光の周遊性

道の駅

サイクルツーリズム

対応する施策

(1)人・モノ・サービスが行き交う みちづくり

(2)ストレスなく快適に移動できる みちづくり

(3)観光を満喫できる みちづくり

目標

施策	整備効果	策定時現状 【2017年度末】	中間評価時点 【2022年度末】	目標 【2027年度末】	将来目標
I-(1)	重要物流道路等における対策必要箇所の整備	—	0箇所	9箇所 (50%)	18箇所 (100%) 【2035年度末】
	緊急輸送道路における危険箇所の整備	—	0箇所	57箇所 (62%)	92箇所 (100%) 【2035年度末】
I-(2)	迂回路における大型車の通行に支障をきたす区間の整備	—	0箇所	11箇所 (55%)	16箇所 (80%) 【2035年度末】
I-(3)	緊急又は早期に対策が必要な橋梁・トンネルにおける修繕等の措置完了率	—	橋梁 23% トンネル 75% 【2021年度末】	100%	—

目標

施策	整備効果	策定時現状 【2017年度末】	中間評価時点 【2022年度末】	目標 【2027年度末】	将来目標
II-(1)	H24点検 通学路安全対策箇所整備率	83%	100% (達成)	100%	—
	R3通学路合同点検要対策箇所の整備	—	477箇所	647箇所	—
II-(2)	照明LED化によるCO2排出量削減 (トンネル照明除く)	10,176 t-CO2/Kwh	2,271 t-CO2/Kwh (達成)	2,271 t-CO2/Kwh	—
	道の駅(県管理)へのEV充電設備 設置率	65% (13/20箇所)	71% (15/21箇所)	100%をめざした 設置支援実施	—
II-(3)	「信州まち・あい空間」を創出する地区数	—	0地区	10地区	—
II-(4)	主要医療施設 15分人口カバー率	約85%	87% (達成)	—	87%
	主要医療施設 30分人口カバー率	約97%	98% (達成)	—	98%

目標

施策	整備効果	策定時現状 【2017年度末】	中間評価時点 【2022年度末】	目標 【2027年度末】	将来目標
III-(1)	高規格道路 15分アクセス圏人口カバー率	約70%	73%	—	約80%
	東京90分圏域 伊那谷人口カバー率	0%	0%	—	リニア開業 約60% + 関連道路 約85%
	名古屋60分圏域 伊那谷人口カバー率	0%	0%	—	リニア開業 約46% + 関連道路 約59%
III-(2)	道の駅(県管理)への公衆無線LANの設置率	40% (8/20箇所)	67% (14/21箇所)	100%をめざした 設置支援実施	—
	道の駅(県管理)のトイレ洋式化率	53% (洋式トイレ数105/ 総トイレ数197)	91% (洋式トイレ数189/ 総トイレ数208)	概ね100% + 快適性向上	—
III-(3)	Japan Alps Cycling Road整備延長	—	約180km	—	約878km

重点施策1：防災拠点へアクセスする重要物流道路等の機能強化

重要物流道路等の整備により、平常時・災害時を問わない安定的な人流・物流を確保します。

対応する施策

重点分野Ⅰ 施策（1）災害に強い みちづくり
①重要物流道路や代替・補完路の整備

重点施策2：緊急輸送道路の危険箇所の解消による平常時・緊急時の信頼性向上

緊急輸送道路の整備により、災害時等における緊急車両や道路利用者の通行を確保します。

対応する施策

重点分野Ⅰ 施策（1）災害に強い みちづくり ②緊急輸送道路の強靱化
重点分野Ⅰ 施策（1）災害に強い みちづくり ④落石や土砂崩落への対策

重点施策3：重要物流道路のダブルネットワークを補完する広域的な迂回機能の強化

近年、激甚化・頻発化する災害等から、緊急車両の通行確保や物流を含む道路利用者への影響を最小限にするため、道路の迂回機能を強化します。

対応する施策

重点分野Ⅰ 施策（2）災害対応の迅速化をめざした みちづくり
①災害時における道路の迂回機能の強化

重点施策4：本州中央部広域交流圏を形成する幹線道路の整備

高速交通網等やアクセス道路が整備され、都市と地方の交流や観光の促進、県内産業の更なる発展をめざします。

対応する施策

重点分野Ⅲ 施策（1）人・モノ・サービスが行き交う みちづくり
①本州中央部広域交流圏を形成する幹線道路の整備

重点施策5：リニアの整備効果を県内に波及させるための関連道路の整備

県では、リニア中央新幹線の整備効果を広く県内に波及させるため、平成26年3月に「長野県リニア活用基本構想」を策定しました。

この構想の実現に向け、平成27年度以降新たに「リニア関連道路整備」として4つの整備方針を実施し、リニア開業時までには効果発現をめざします。

対応する施策

重点分野Ⅲ 施策（1）人・モノ・サービスが行き交う みちづくり
②リニア中央新幹線の整備効果を広く県内に波及させるための関連道路の整備

整備方針

- 平常時・災害時を問わず安定的な通行を確保するため、事故危険箇所や渋滞発生箇所について優先して整備

指標

整備効果	中間評価時点 【2022年度末】	目標 【2027年度末】	将来目標 【2035年度末】
重要物流道路等における対策必要箇所の整備	0箇所	9箇所 (50%)	18箇所 (100%)



(国)141号 佐久市～小諸市 跡部～平原 (浅藪大橋)

整備方針

- 落石等危険箇所、事故危険箇所について優先して整備

指標

整備効果	中間評価時点 【2022年度末】	目標 【2027年度末】	将来目標 【2035年度末】
緊急輸送道路における危険箇所の整備	0箇所	57箇所 (62%)	92箇所 (100%)



(国)254号 上田市 東内～西内

整備方針

- 迂回路で、大型車の通行に支障をきたす区間を整備
- 迂回路で、すれ違いが困難で通行の支障となった箇所を整備

指標

整備効果	中間評価時点 【2022年度末】	目標 【2027年度末】	将来目標 【2035年度末】
迂回路における大型車の通行に支障をきたす区間の整備	0箇所	11箇所 (55%)	16箇所 (80%)



(一)上松南木曾線 大桑村～南木曾町 読書ダム～戸場

整備方針

- 高規格道路等のミッシングリンク解消
- 交通拠点へのアクセス道路を整備

指標

整備効果	策定時現状 【2017年度末】	中間評価時点 【2022年度末】	将来目標
高規格道路 15分アクセス圏人口カバー率	約70%	73%	約80%



(主)諏訪辰野線 岡谷市～諏訪市 小坂～有賀 (平山トンネル施工状況)

整備方針

- 長野県駅の周辺整備
- 高速道路とリニアを一体化する道路整備
- J R 東海のトンネル発生土運搬路確保に合わせた道路整備
- リニア 3 駅活用交流圏の実現に向けた道路整備

指標

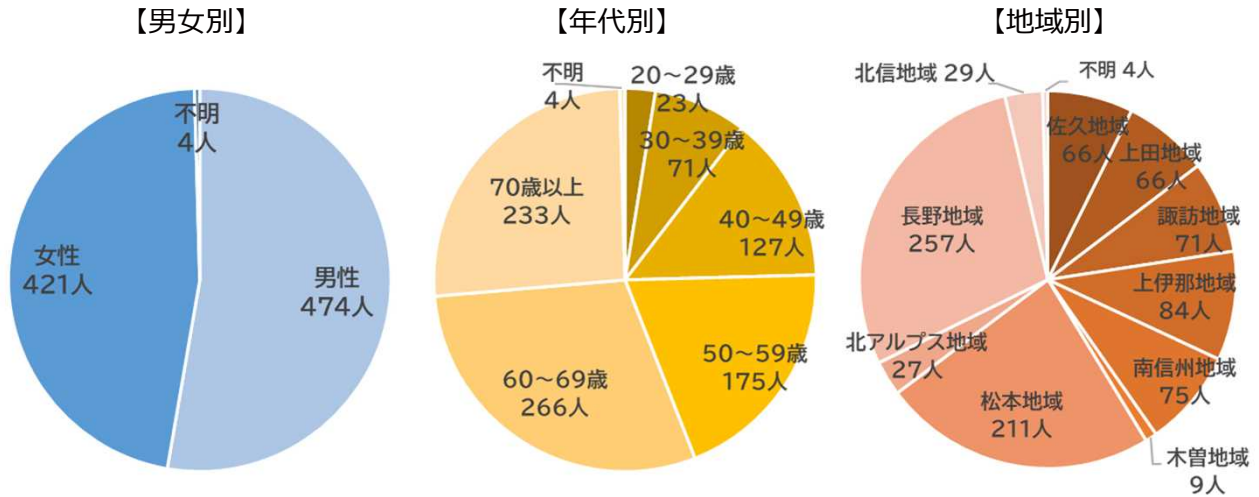
整備効果	策定時現状 【2017年度末】	中間評価時点 【2022年度末】	将来目標
東京90分圏域 伊那谷人口カバー率	0%	0%	リニア開業 約60% + 関連道路 約85%
名古屋60分圏域 伊那谷人口カバー率	0%	0%	リニア開業 約46% + 関連道路 約59%



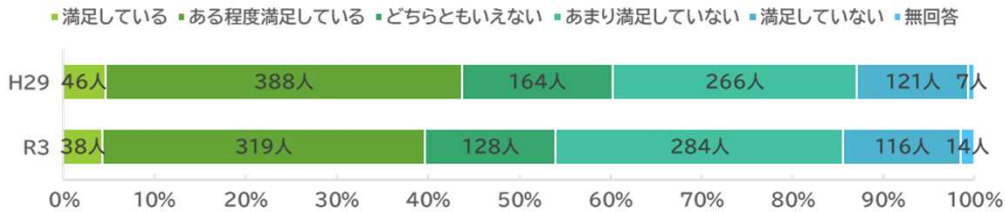
(国)153号 飯田市 飯田北改良

R3県政モニターによる道路整備のニーズ

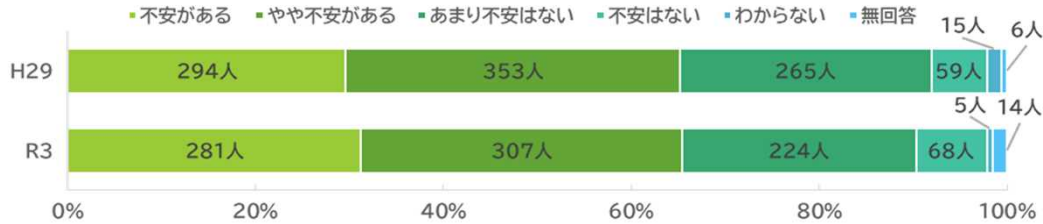
- (1)調査地域：長野県全域
- (2)調査対象：県政モニター 1,249人（現在の県政モニターは令和2年8月から登録）
- (3)調査方法：郵送又はインターネット
- (4)調査期間：令和3年8月31日(火)～9月14日(火)
【前回 平成29年5月30日(火)～6月12日(月)】
- (5)回答者数：899人（回答率 72.0%）【前回 992人（回答率80.7%）】



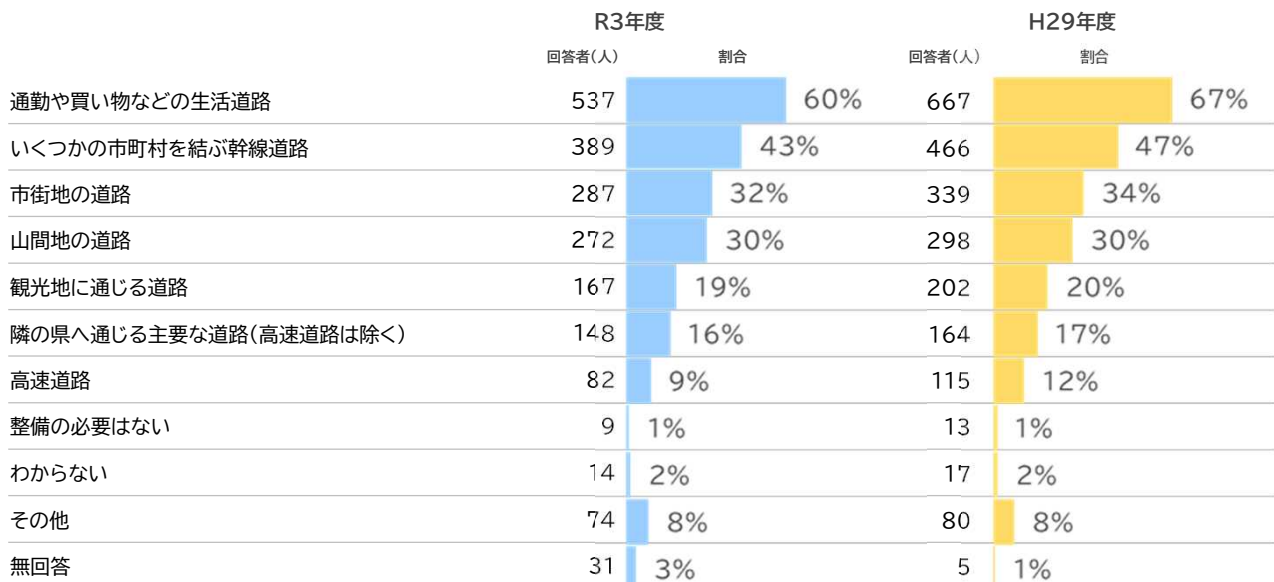
▶現在の道路整備状況について満足していますか。（○は1つ）



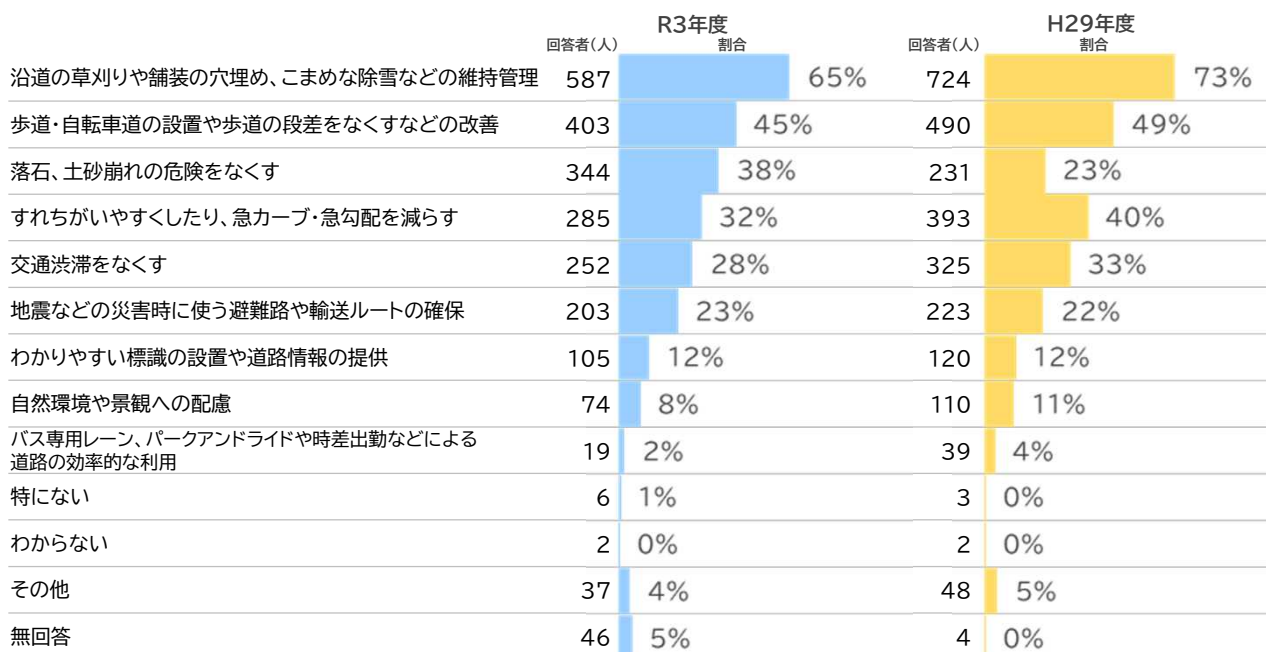
▶大地震や大雨などによる災害が発生した場合、お住まいの近くにある道路について崩落や浸水による道路網分断等の不安を感じますか。（○は1つ）



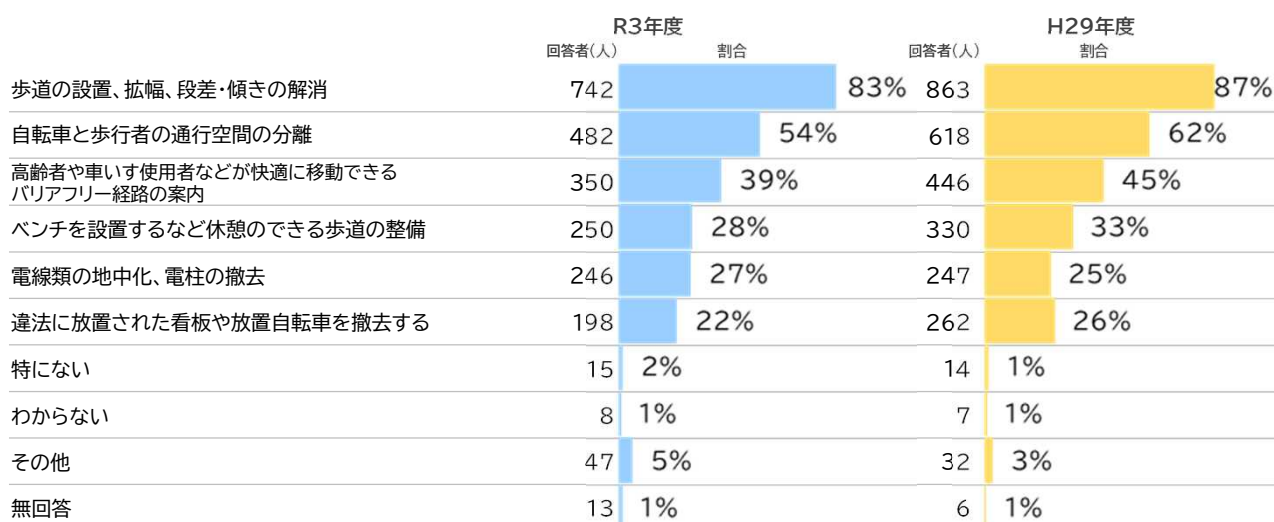
▶今後どのような道路を優先して整備すべきだと思いますか。（○は3つまで）



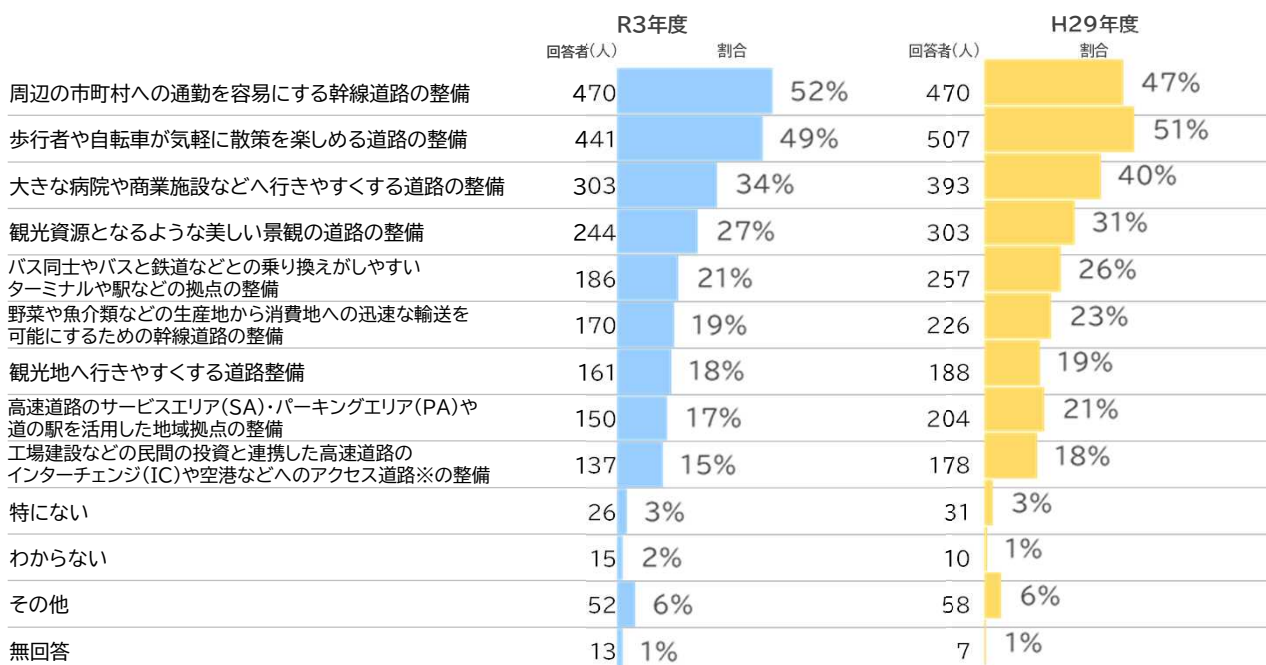
▶ 日常利用している県内の道路について、どんな対策を優先的に進めるべきだと思いますか。（○は3つまで）



▶ 高齢歩行者などに対する配慮として、歩行者の立場からどのような道路整備が必要だと思いますか。（○はいくつでも）



▶ お住まいの地域が活性化するために、道路整備の面からどのような対策が必要だと思いますか。（○はいくつでも）





信州みちビジョン
令和5年(2023年) 10月 改定
長野県 建設部

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2
長野県建設部道路建設課
☎ 026-235-7304
✉ michiken-keicho@pref.nagano.lg.jp
🌐 <https://www.pref.nagano.lg.jp/>